

教育内容	基礎分野 科学的思考の基盤	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	論理学	単位 1単位	科学的思考の基盤として、論理的に思考し文章表現できる能力を養い、看護者としての判断能力・問題解決能力を身につける		
担当講師	遠藤 正水 教育経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	5 社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探究し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	イントロダクション	「論理的思考」とは？	講義	基礎分野 心理学
	2	接続関係と文章表現	文章と文章との繋がり 日々作成している文章とレポートの文章との違い	講義	人間関係論
	3	文章作成①	レポートの形式を意識した文章作成	講義・演習	専門基礎分野
	4	論証のあり方①	「だから」「したがって」の意味 演繹的論証	講義	専門分野 I 看護学概論 共通看護技術 I 基礎統合演習
	5	論証のあり方②	「だから」「したがって」の意味 帰納的・推測的論証	講義	専門分野 II
	6	文章作成②	起承転結を意識した文章作成①	講義・演習	成人援助論 I 成人援助論 II 老年援助論 III
	7	論理的思考	因果関係と相関関係の違い 否定、消去法、背理法	講義	小児援助論 III 母性援助論 III 精神援助論 III
	8	文章作成③	起承転結を意識した文章作成②	講義・演習	統合分野
	9	批判のテクニック①	批判と異論との違い	講義	在宅援助論 III 看護の統合と実践
	10	文章作成④	起承転結を意識した文章作成③	講義・演習	
	11	批判のテクニック②	論拠を意識した批判	講義・演習	
	12	文章作成⑤-1	話題を踏まえた文章作成①	講義	
	13	文章作成⑤-2	話題を踏まえた文章作成②	演習	
	14	まとめ	講義全体の纏め	講義	
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(3割) 学習状況(7割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	ナースのための文章表現法 看護の科学社				

教育内容	基礎分野 科学的思考の基盤	時期 2年次	科目のねらい 看護の分野で統計的なもの見方および考え方の基本を身につける 文献検索、情報処理操作技術を学ぶ		
授業科目	情報科学	単位 1単位			
担当講師	門脇 達彦 教育経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
	5	社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探求し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	データの性質 データをグラフで表現する	ガイダンス 尺数と数の性質 ヒストグラム	講義	基礎分野 論理学 心理学 人間工学
	2	データの性質	基礎統計 標準偏差	講義	専門基礎分野
	3	分布の種類と特徴	計量(連続的)分布と係数(離散的)分布 計量分布	講義	専門分野 I 看護学概論 看護研究
	4	F検定	F検定	講義	専門分野 II
	5	t検定	対応のないデータの平均値の差の検定 ウェルチの検定 t検定	講義	
	6	χ^2 検定	χ^2 検定の考え方 適合度の検定	講義	統合分野 看護倫理
	7	相関分析	相関とは 相関の程度を表す方法 相関分析の理論	講義	
	8	情報と情報化社会	情報の定義と特徴 情報化社会	講義	
	9	保健医療における情報	保健医療と情報	講義	
	10		看護と情報 医療における情報システム		
	11	情報と倫理	情報倫理と医療倫理 患者の権利と情報 個人情報の保護 コンピューターリテラシーとセキュリティ	講義	
	12	情報処理	既存の情報収集	講義	
	13	プレゼンテーション能力	プレゼンテーションに必要な能力とは プレゼンテーションの具体的方法	講義	
	14		プレゼンテーションの実際	演習	
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 医療・看護のためのやさしい統計学 基礎編 東京図書				

教育内容	基礎分野 科学的思考の基盤	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	マネジメント論	単位 1単位	健全な医療は健全な経営および組織マネジメントから生まれる 社会における経済、経営のしくみを理解し、科学的な経営管理およびマネジメントについて学ぶ		
担当講師	中川 万喜子 教育経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	経済のしくみ①	経済の3主体 需要と供給 市場の失敗	講義	基礎分野 教育学
	2	経済の仕組み②	政府の役割 社会保障 医療費問題	講義	専門基礎分野 保健医療論 社会福祉 I
	3	経営のしくみ①	組織のマネジメント(1) 組織とは何か 動機づけ理論 目標管理	講義	専門分野 I 看護学概論
	4	経営の仕組み②	自己SWOT分析をやってみよう	講義	専門分野 II
	5	経営の仕組み③	組織のマネジメント(2) グループダイナミクス 組織改革 サービス経営 サービス特有の性質を学ぶことにより、いかに サービスが経営に結びついているかを考える	講義	統合分野 看護管理 看護の統合と実践
	6	経営の仕組み④	対人関係のマネジメント コミュニケーション 品質の評価と管理(1)	講義	
	7	経営の仕組み⑤	品質の評価と管理(2) 医療の質の評価 医療の安全対策 まとめ	講義	
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(7割) レポート(3割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	特に定めない、必要に応じてプリント教材の配布を行う				

教育内容	基礎分野 人間と生活、社会の理解	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	心理学	単位 1単位	人間の認知の特性とそれが脳の中でどのように処理されているかについて、検討する		
担当講師	岩原 昭彦 教育経験:10年以上	時間数 30時間	人間の感覚・知覚と認知・思考との関連を学習し、人間の認知がいかに不安定で誤りが多いものであるかを知る さらには、「人はなぜ間違えたり、だまされたりするのか」という問題の解をさぐる		
教育目標	2	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	はじめに	人間の認知の特性	講義	基礎分野 人間工学
	2	否認する患者たち	脳の損傷と大脳皮質の機能	講義	人間関係論 人間関係論
	3	まぼろしの映像	幻覚と錯覚	講義	専門基礎分野
	4	見えないのに見えている	閾下知覚と前注意過程	講義	解剖生理学 I 解剖生理学IV
	5	忘れられた左空間	半側空間無視と半側身体失認	講義	専門分野 I
	6	忘れたが覚えている	記憶障害と潜在記憶	講義	看護学概論 成人看護学概論
	7	記憶の意外な役割	不思議現象と記憶	講義	老年看護学概論 小児看護学概論
	8	意識できない知識	プライミングと潜在学習	講義	母性看護学概論 精神看護学概論
	9	うまく言葉が使えない	言語の役割と失語	講義	在宅看護概論
	10	予知体験の不思議	思考のバイアス	講義	専門分野 II
	11	揺れ動く行動の謎	情動と帰属理論	講義	統合分野 医療安全
	12	もうひとりの私	分割脳と自己	講義	
	13	意識と行動の乖離	意識と無意識	講義	
	14	医療過誤はなぜ起こる	ヒューマンエラーとアクションスリップ	講義	
	まとめ	まとめ			
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(7割) 学習状況(3割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	特に定めない、必要に応じてプリント教材の配布を行う				

教育内容	基礎分野 人間と生活、社会の理解	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	人間工学	単位 1単位	人の身体の姿勢や動作は物や環境デザインに調和するものである。最新の人間工学の知識だけではなく、広く社会の中で、利用されているものを知り、その中で、医療事故やミス防止の考え方を身につける。人間と機器、環境との関係をヒトの形態、心理、生理学的特性から捉え、看護技術に関連する人間工学の基礎を学ぶ		
担当講師	門脇 達彦 教育経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	質点の力学 —体位変換の原理を学ぶ	速度と加速度 基本単位と組み立て単位 平均速度と瞬間速度 加速度 ニュートンの運動法則 力の加減	講義	基礎分野 心理学 心と身体の健康 I 心と身体の健康 II
	2		ニュートンの運動法則	講義	専門基礎分野 解剖生理学 I
	3		質量と重さ(重力)	講義	解剖生理学 II
	4		力学的エネルギーの保存則 赤ちゃんを抱きあえる時のエネルギー 点滴の落ちる速度	講義	解剖生理学 III 解剖生理学 IV 看護形態機能学
	5	剛体の力学 —倒れない条件、倒れにくい条件	無視できない摩擦 摩擦力とは 牽引における摩擦 押す場合と引く場合	講義	専門分野 I 看護学概論 看護援助技術 IV
	6		剛体の釣り合い 剛体におけるトルクの釣り合い	講義	専門分野 II
	7		重心とその具体的解釈 ファーラー位の角度は決められるか 看護の所動作もたらす脊柱への影響	講義	統合分野 医療安全
	8		重心と安定性 看護の場などにみられるトルクとその考え方 鉗子とピンセット 身体にみられるトルク 体位変換とトルク ハイヒールとナースシューズ	講義	
	9	流体—水中リハビリテーションで感じる体重は?	アルキメデスの原理 気圧	講義	
	10		ベルヌーイの定理 粘性と経管栄養 圧力、高気圧、低気圧 ネブライザーの原理	講義	
	11	圧力—圧力と看護の深い関係	ケイソン病 気圧 血圧	講義	
	12		酸素ポンプ サイフォン	講義	
	13		低圧持続吸引装置 真空採血	講義	
	14	音に関する現象 —音と医療の意外な関係	音波の基本的知識 医療に必要な超音波 電磁波	講義	
15	終講試験				
評価方法	筆記試験(8割) 学習状況(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 物理学 医学書院 完全版 ベッドサイドを科学する 看護に生かす物理学 学研メディカル				

教育内容	基礎分野 人間と生活、社会の理解	時期 3年次	科目のねらい		
授業科目	哲学	単位 1単位	哲学の考え方を学ぶことによって、人や社会について、またその中での看護について、あらためて考えてみるができるようになる。ここでいう“あらためて考えてみる”とは、普段の見方から少し離れてものごとをみることや、「常識」に頼らず自分で考えること、論理的・批判的に考えることを含む		
担当講師	小林 道太郎 教育経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	1 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う				
	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	5 社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探求し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	哲学とは何をする事か	哲学の起源 批判的に考えること: ソクラテスの探求から	講義	基礎分野 心理学 人間関係論 論理学 文化社会学
	2	クリティカルシンキング	論理と対話 帰納的推論で注意すべきこと	講義	文化社会学
	3	生活世界	自然科学的な見方とその難点 基盤としての生活世界について考えるために	講義	専門基礎分野
	4	現象学	「事象そのものへ!」: 経験をみること 現象学と医療・看護	講義	専門分野 I 看護学概論 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論 精神看護学概論 在宅看護概論
	5	人とかかわること	文化と価値の多様性 人とかかわるときの先入見や差別	講義	
	6	人生の物語	他の人を理解すること 自分の行為・人生の物語的理解	講義	
	7	生と死	人にとって死ぬとはどういうことか 絆の継続	講義	専門分野 II
	8	よく生きること		講義	統合分野 看護管理・看護倫理 看護の統合と実践
評価方法	レポート(6割) 授業時の提出物(4割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト					

教育内容	基礎分野 人間と生活、社会の理解	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	文化社会学	単位 1単位	保健医療文化の比較や保健医療社会学の理論・方法を踏まえて、健康・病気と社会との関係、保健医療における行為・関係・組織・制度を学び、さらには、保健医療の現代的課題を取り上げる		
担当講師	土肥 豊 教育経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を实践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	社会学とは	何を扱う学問か 健康、病気、医療への視座	講義	基礎分野 心理学
	2	基礎概念と方法	社会学の基礎概念、社会学的視点とモデル	講義	人間工学 人間関係論
	3	保健医療と社会学	医療と社会学の接点、社会調査の理論と技法	講義	心と身体の健康 I
	4	健康・病気と社会(1)	健康・病気・ストレスの新しい見方ととらえ方	講義	専門基礎分野 保健医療論
	5	健康・病気と社会(2)	社会格差と平等、健康・病気の社会格差	講義	社会福祉 I 社会福祉 II
	6	健康・病気と社会(3)	「働き方」「働かせ方」と健康・病気	講義	専門分野 I
	7	健康と病気	健康行動と病気行動、病経験、病の語り	講義	看護学概論 看護援助技術 I
	8	患者-医療者関係	患者-医療者関係とコミュニケーション	講義	専門分野 II
	9	保健医療の専門職	保健医療職種、専門職論、看護職論の現在	講義	成人看護学概論 老年看護学概論
	10	ジェンダーと保健医療	性とジェンダー、保健医療からみた結婚と家族	講義	小児看護学概論 母性看護学概論
	11	地域社会と保健医療	コミュニティと地域、ノーマライゼーションと地域	講義	精神看護学概論 在宅看護概論
	12	保健医療制度	福祉国家と社会保障制度 わが国の保健医療制度	講義	統合分野 看護管理・看護倫理
	13	保健医療の現代的変化	保健医療システムの変容、 わが国の医療システムの課題	講義	看護の統合と実践
	14	保健医療の現代的課題	ケアと医療、ケア論、ケアと医療の新たな 関係性に向けて	講義	
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 家族論・家族関係論 医学書院				

教育内容	基礎分野 人間と生活、社会の理解	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	教育学	単位 1単位	教育の機能と本質を学び、主体的に学習するための自己の姿勢を養うことを目指す		
担当講師	西 卓男 教育経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
	5 社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探求し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	教育とは	教育の意義・目的・方法 教育と看護 教育と発達の関係 学習理論・教育原理	講義	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論 心と体の健康 I
	2	自己表現①	簡単な工作(エッグドロップ)を通じて相手に自分の意志をつたえる	講義 演習	専門基礎分野 解剖生理学 I
	3	自己表現②	簡単な工作(エッグドロップ)を通じて相手に自分の意志をつたえる	講義 演習	解剖生理学 II 解剖生理学 III 解剖生理学 IV
	4	コミュニケーションについて	伝言ゲームなどの簡単な方法でコミュニケーション手段を学ぶ	講義 演習	専門分野 I 看護学概論
	5	グループワークについて	簡単な共同作業(マシュマロチャレンジ)を通して協調性を学ぶ	講義 グループワーク	看護援助技術 III 共通看護技術 I
	6	情報伝達の手段について	ピクトグラムなど一般に使われている案内記号について学ぶ	講義 演習	専門分野 II 成人看護学概論 成人援助論 II
	7	食育	自分たちが普段食べている食材について学ぶ	講義	小児看護学概論 母性看護学概論 統合分野
8	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(5割) 学習状況(5割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト					

教育内容	基礎分野 人間と生活、社会の理解	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	人間関係論	単位 1単位	人間関係の基礎理論やコミュニケーション、カウンセリング技法を学習し、自己理解するとともに他者理解する		
担当講師	堀田 千絵 教育経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	1	生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う			
	2	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	人間関係論を学ぶ意義	授業オリエンテーション 望ましい人間関係を築くことの重要性	講義 演習	基礎分野 心理学
	2	自己理解 I	自己知覚 性格検査の活用	講義 演習	哲学
	3	自己理解 II	対人援助職の適性からみる自己 適性検査の活用	講義 演習	専門基礎分野
	4	自他理解 I	対人葛藤場面における対処のあり方からみる自己	講義 演習	専門分野 I
	5	自他理解 II	他者からみた自己と印象形成	講義 演習	看護学概論 看護援助技術 I 共通看護技術 I
	6	未来の樹	対人援助職としての私:過去・現在・未来を描く	講義 演習	専門分野 II
	7	コミュニケーション技法 I	コミュニケーションとは 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション	講義 演習	精神看護学概論 成人看護学概論 成人援助論 I
	8	コミュニケーション技法 II	自己変容のためのアプローチ① ドールロケーションテストの活用から考える	講義 演習	成人援助論 II 成人援助論 III
	9	コミュニケーション技法 III	自己変容のためのアプローチ② カウンセリングマインドを身につける	講義 演習	統合分野
	10	コミュニケーション技法 IV	自己変容のためのアプローチ③ 傾聴・共感の実践と客観的評価(POMSの活用)	講義 演習	
	11	コミュニケーション技法 V	自己変容のためのアプローチ④ 行動療法の考え方の活用	講義 演習	
	12	集団の中の自己 I	排除と共生のメカニズム 職場の人間関係から考える	講義 演習	
	13	集団の中の自己 II	リーダーシップと協働性	講義 演習	
	14	セルフケア	ストレスマネジメント 自分の心と身体を大切にするとリスト作り	講義 演習	
	15	まとめ	自分史をみつめ、将来を描く 自己実現とやり抜く力を学ぶ		
評価方法	総合評価(毎回のグループ活動や毎時レポートおよび期末レポート、出席や学習への理解・到達状況で判断します) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	指定テキストはなし。講義レジュメ・教材資料は別途配布します。				

教育内容	基礎分野 人間と生活、社会の理解	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	英語 I	単位 1単位	看護と医療に関する英文を読んで、内容を把握する力を養成することを目指す テキスト以外にもプリントで、看護と医療に関する今日的な話題の英文を読む		
担当講師	黒瀬 勉 教育経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
	5	社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探求し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	看護とは	項目の英文の講読、英単語など	講義	基礎分野 人間関係論
	2	看護の歴史	項目の英文の講読、英単語など	講義	専門基礎分野
	3	リーディング 1	人間の発達・成長におけるケアの重要性 1	講義	専門分野 I 看護学概論
	4	患者と看護師の関係	項目の英文の講読、英単語など	講義	専門分野 II
	5	患者とのコミュニケーション	項目の英文の講読、英単語など	講義	統合分野
	6	リーディング 2	人間の発達・成長におけるケアの重要性 2	講義	
	7	患者との異文化コミュニケーション	項目の英文の講読、英単語など	講義	
	8	医師と看護師の関係	項目の英文の講読、英単語など	講義	
	9	リーディング 3	人間の発達・成長におけるケアの重要性 3	講義	
	10	関連のある職種の人たち	項目の英文の講読、英単語など	講義	
	11	看護師と病院	項目の英文の講読、英単語など	講義	
	12	リーディング 4	授業の進展を考慮して、英文の内容を決める	講義	
	13	地域における看護師	項目の英文の講読、英単語など	講義	
	14	未来の看護	項目の英文の講読、英単語など	講義	
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 中間の小テストも含む 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	English for Nursing Students 南雲堂				

教育内容	基礎分野 人間と生活、社会の理解	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	英語Ⅱ	単位 1単位	看護場面や日常に必要な英会話に焦点を置き、口頭での会話技術を学び、総合的な英会話能力を高める		
担当講師	Richard Farmer 教育経験:10年以上 野嶋 明子 教育経験:5年以上	時間数 30時間			
教育目標	1 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を实践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
	5 社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探究し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	授業の紹介 自己紹介 英語であいさつ	ネイティブ講師と日本人講師がそれぞれ授業内容を紹介し、クラス分けをする。 講師による自己紹介。英語でのあいさつを覚える。	講義	基礎分野 人間関係論
	2	紹介の仕方 テキスト Pre-unit A~C	生徒同士、ペアワークで、互いに紹介し合う。グループワークで、パートナーを他のグループメンバーに紹介する。	講義	専門基礎分野
	3	診療科目 テキスト Unit 1 Hospital Departments	診療科目の英語名称を学ぶ。ダイアログのリスニングや会話練習を通じて、患者の訴えから正しい診療科に導くための表現を学ぶ。 現在形表現を習得する。	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論 看護援助技術Ⅰ
	4	診療科目 テキスト Unit 1 Hospital Departments	診療科目の英語名称を学ぶ。ダイアログのリスニングや会話練習を通じて、患者の訴えから正しい診療科に導くための表現を学ぶ。 現在形表現を習得する。	講義	専門分野Ⅱ
	5	身体部位 テキスト Unit 3 Parts of the Body	身体部位の英語名称を学ぶ。ダイアログのリスニングや会話練習を通じて、各部位の症状についての英語表現を学ぶ。 現在進行形表現を習得する。	講義	統合分野 国際看護
	6	身体部位 テキスト Unit 3 Parts of the Body	身体部位の英語名称を学ぶ。ダイアログのリスニングや会話練習を通じて、各部位の症状についての英語表現を学ぶ。 現在進行形表現を習得する。	講義	
	7	疾患 テキスト Unit 4 illnesses	ダイアログのリスニングや会話練習を通じて、疾患とその症状についての英語表現を学ぶ。 過去形表現を習得する。	講義	
	8	ここまでの復習 Review of Units 1, 3 and 4	これまで学んだことを復習し、不明点を解決し、知識を確実なものにする。	講義	
	9	入院患者の日課 テキスト Unit 5 Daily Routine	ダイアログのリスニングや会話練習を通じて、入院患者の日課に関するコミュニケーションを学ぶ。 助動詞の使い方を習得する。	講義	
	10	入院患者の日課:時間の表現 テキスト Unit 5 Daily Routine: Time	時間に関する表現を学ぶ。	講義	
	11	医療用具 テキスト Unit 6 Hospital Objects	医療用具の英語名称を学ぶ。	講義	
	12	医療用具 テキスト Unit 6 Hospital Objects	医療用具の英語名称を学び、用途を英語で説明する。 未来形表現を習得する。可算/不可算名詞を学ぶ。	講義	
	13	患者との会話 テキスト Unit 10 Chatting with a Patient	バイタルサイン、体調、興味などについての患者とのコミュニケーションを学ぶ。 現在形vs現在完了形表現を習得する。	講義	
	14	病歴を取る テキスト Unit 11 Taking a Medical History	ダイアログのリスニングや会話練習を通じて、患者の病歴を取るための英語表現を学ぶ。 現在完了形表現を習得する。	講義	
15	まとめ Class conclusion and review. Final Exam. Prep. 終講試験	終講試験に備えてのまとめと復習。	講義		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	ホスピタル・イングリッシュ Vital Signs 南雲堂 テキスト以外に、ネイティブ講師独自の動画やYouTube、リスニング教材等により、生の英語に触れる。 学生の習熟度レベルや必要に応じて、テキスト以外の教材を取り入れるため、上記スケジュールは変更することがあります。				

教育内容	基礎分野 人間と生活、社会の理解	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	心と身体の健康 I	単位 1単位	生涯スポーツの基礎づくりと共に、体力を増強し、健康な心身の発達を図ることを目的とする また、運動が心身に及ぼす影響について学び、運動の必要性を理解し、健康に必要な知識と実技を習得する		
担当講師	港野 恵美 教育経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	ガイダンス	「心と身体の健康」の意義と目的	講義	基礎分野 人間工学 心と身体の健康 II
	2	スポーツ種目の基礎①	体ほぐし運動	実技	専門基礎分野 解剖生理学 I 解剖生理学 II 看護形態機能学
	3	スポーツ種目の基礎②	球技	実技	専門分野 I 看護学概論 看護援助技術 I
	4	スポーツ種目の基礎③	球技	実技	専門分野 II 成人看護学概論 成人援助論 I 成人援助論 II 成人援助論 III 成人援助論 IV 成人援助論 V
	5	スポーツ種目の基礎④	球技	実技	統合分野
	6	スポーツトレーニング	筋肉の科学 レジスタンストレーニングの実践	実技	
	7	心と身体の健康 I まとめ	有酸素運動・筋力トレーニング・ストレッチングの基礎と実践	実技	
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(4割) 実技・学習状況(6割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院				

教育内容	基礎分野 人間と生活、社会の理解	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	心と身体の健康Ⅱ	単位 1単位	身体活動の基礎となる体力・運動能力の向上を目指し、スポーツと健康について実習を通して理解を深める また、健康の保持・増進の認識を深め、スポーツ活動を含む種々の身体運動を通して豊かな人間性を育成する		
担当講師	港野 恵美 教育経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	スポーツ種目の応用①	球技 ゲーム展開	実技	基礎分野 人間工学 心と身体の健康Ⅰ
	2	スポーツ種目の応用②	球技 ゲーム展開	実技	専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ
	3	スポーツ種目の応用③	球技 ゲーム展開	実技	解剖生理学Ⅱ 看護形態機能学
	4	スポーツ種目の応用④	球技 ゲーム展開	実技	専門分野Ⅰ 看護学概論 看護援助技術Ⅰ
	5	スポーツプログラミング①	ロコモティブシンドロームとロコトレ 老化予防エクササイズとロコトレウォーキング	実技	専門分野Ⅱ
	6	スポーツプログラミング実践	有酸素運動、ストレッチング、筋力トレーニングを理解し、対象に応じた健康のためのエクササイズをグループで考える	実技	統合分野
	7	実技まとめ	スポーツプログラミング・グループ発表 実技試験	実技	
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(4割) 実技・学習状況(6割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院				

